

日本学術会議

多文化共生分科会公開シンポジウム

「地域社会における外国籍生徒—義務教育以降の問題」

日本では、近年ニューカマーと呼ばれる外国籍の住民が増加し、その多様性も増してきています。特に子供たちの教育の問題は多様です。今回のシンポジウムでは、外国籍住民の定住化が進みつつある現在、特に高校、大学などの義務教育以降の教育の問題を取り上げます。具体的に各地ではどのような問題があり、取り組みが行われているのでしょうか？

開催日時：2016年12月23日（祝）
13:00～18:00（開場12:30）

場所：立教大学 太刀川記念館（池袋）
※入場無料／事前申込不要／当日先着順



司会 岩間 暁子（日本学術会議連携会員、立教大学教授）
岸上 伸啓（日本学術会議連携会員、国立民族学博物館教授）

はじめに — このシンポジウムのめざすところ
窪田 幸子（日本学術会議第一部会員、神戸大学教授）

「外国人生徒の高校以上への進学の意味 — 多文化共生の新しいステップ」宮島 喬（日本学術会議特任連携会員、お茶の水女子大学名誉教授）

「外国人集住地域における進路の保障 — 県内人口比1.7%の滋賀県の実情」竹下 秀子（日本学術会議連携会員、滋賀県立大学）

「外国にルーツのある生徒の受け入れの現状と課題 — 大阪の高等学校の場合」榎井 縁（大阪大学特任准教授）

「外国にルーツのある若者の高校・大学進学問題 — 進路保障と宇都宮大学の実践」田巻 松雄（宇都宮大学教授）

コメント 竹沢 泰子（日本学術会議連携会員、京都大学教授）

主催：地域研究委員会多文化共生分科会

共催：科学研究費補助金基盤(S)「人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究」
(代表・竹沢泰子)、日本文化人類学会、日本社会学会

問合せ：窪田 幸子 kubotas@people.kobe-u.ac.jp